

図4. サイエンスⅡアドバンスセミナー・校内発表会ルーブリック

研究テーマ		計画		結果		考察	説明・応答	体裁		
オリジナリティ	仮説の設定	方法	予備調査研究	データ	解釈・まとめ					
A	課題発見の着眼点に独創性がみられる。	研究の目的・課題が明確に示され、それに対する結果の予測が論理的かつ多角的に行われている。	課題解決を進めるために多角的な検証方法で研究されている。	予備調査・先行研究がテーマに合わせて十分に調べられており、出典・引用元が明らかである。	研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分適合する量のデータ・資料を収集している。	資料や得られたデータを図やグラフで分かりやすくまとめ、文章により客観的な説明がなされている。	目的で示された課題に対する考察が研究結果にもとづいて明確に考えられており、今後の研究の展望も示されている。	明瞭な声で、論理的に内容を聞き手に伝えることができる。質疑応答では、質問内容を把握し、冷静に的確な応答ができる。	右の評価する3点すべて適正に行われている。	
B	同様の先行研究はあるが、研究方法などに独自の創意工夫がみられる。	研究の目的・課題が示されているが、結果の予測がない、説明が不十分あるいは間違っている。研究範囲が広すぎる。	方法が示されているが、対象実験がないなど手順が一部適切でない、あるいは学校で実施する方法として不備がある。	予備調査・先行研究調査がなされているが、出典・引用元が明確でない。	データ・資料を収集しているが、選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分な量とはいいづらい。	図やグラフ、説明文のどれかが不十分である。	研究結果をふまえた考察としては妥当だが、考察に飛躍がみられる。目的で示された課題との関連が明確でない。	内容を聞き手に伝える意思がみられる。発表内容に関する知識は十分ではないが、初歩的な質問には答えられる。	右の評価する点の1点は適正に行われている。	①グラフや図にタイトル・単位等が示してある。 ②文と文が論理的につながっている。 ③専門用語が正確に使用されている。
C	すでに同様のテーマの先行研究が存在しており、研究方法、仮説等にも独自性は認められない。	研究の目的・課題が示されていない。仮説の設定がない、あるいはテーマと一致していない。	仮説を検証する方法として研究方法が適切でない。	予備調査・先行研究調査がなされていない、ほとんど見受けられない。	収集した量のデータ・資料では、選択した研究方法、分析方法を実施できない。	結果が示されているが、羅列されているだけであり、説明も十分でない。	考察が述べられていない、不適切である。	声が小さい、発表の構成が組み立てられていない等のため、聞き手が理解できない。質問内容がまったく理解できていない。	右の評価する点のすべてが不十分である。	